

# 社会技術研究開発事業 令和6年度研究開発実施報告書

科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への  
包括的実践研究開発プログラム

「 『胎児 - 妊婦コンプレックス』 への治療介入技術臨床  
研究開発に係るELSI 」

松井 健志

（国立研究開発法人国立がん研究センター  
がん対策研究所 生命倫理・医事法研究部長）

## 目次

1. 研究開発プロジェクト名 .....	2
2. 研究開発実施の具体的内容 .....	2
2 - 1. 研究開発目標 .....	2
2 - 2. 実施内容・結果 .....	2
2 - 3. 会議等の活動 .....	5
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況 .....	9
4. 研究開発実施体制 .....	9
5. 研究開発実施者 .....	9
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など .....	13
6 - 1. シンポジウム等 .....	13
6 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など .....	16
6 - 3. 論文発表 .....	16
6 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表） .....	16
6 - 5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等 .....	17
6 - 6. 知財出願 .....	17



課題検討G, 技術的課題検討G, 統括・ELSI/RRI 総合分析G)							
<b>4. 胎児治療介入技術の臨床開発・研究に関するELSIの総合分析</b>							
・ ELSI/RRIの総合分析ととりまとめ（統括・ ELSI/RRI総合分析G）						←→	
・ 臨床開発・研究の倫理的在り方に関する提言・指 針・現場還元等の検討（統括・ELSI/RRI総合分析 G, 技術的課題検討G, 法的課題検討G, 妊婦・女 性性課題検討G）						←→	

## （２）各実施内容

実施項目1：胎児治療に係る治療介入技術の特質に伴う倫理的懸念の抽出・整理

実施内容：技術的課題検討Gを中心として、6回にわたるG検討会を開催した。このG検討会の中で、胎児治療介入技術の具体例の中から、特に内科的介入としてすでに行われているもの（胎児不整脈に対する薬物投与；エプスタイン病による胎児水腫に対するプロスタグランジン投与）を例として、そのELSIについてグループで検討を進めた。このような内科的胎児治療研究のELSIについて分析することで、従来の研究倫理におけるリスク・ベネフィット評価の考え方の枠組みの行き詰まりがあることやその理論的克服の可能性について、議論・検討を進めた。

実施体制：技術的課題検討グループ、妊婦・女性性課題検討グループ、統括・  
ELSI/RRI総合分析グループ

期 間：令和6年4月1日～令和7年3月31日

実施項目2：研究対象存在としての「胎児」に係る法的課題の検討

実施内容：法的課題検討Gが中心となり、4回にわたるG検討会を開催して、胎児治療研究の法的課題を考えるうえでの基礎となる裁判例（胎児や分娩・出生の民法・刑法上の扱い及びそれらをめぐる法的論争事案）および民法と刑法の学説、並びに英国における胎児の法的地位と妊婦の責任について検討を行い、論点整理及び胎児治療の問題に影響を与え得る事項について議論を進めた。

実施体制：法的課題検討グループ、統括・ELSI/RRI総合分析グループ

期 間：令和6年4月1日～令和7年3月31日

実施項目3：「胎児－妊婦コンプレックス」への治療介入技術における妊婦・女性性課題の抽出・整理

実施内容：妊婦・女性性課題検討Gが中心となり、9回にわたるG検討会を開催して、胎児治療研究を取り巻くリスク・ベネフィットの問題、ならびに胎児治療をめぐるTwo-Patientモデルの検討を主に行った。いずれについても国内学会で複数件の発表を行い、論文を投稿した。また年度末にかけては、産科医療の倫理と胎児治療の倫理の問題系を接続させるべく、文献検討を中心に研究を進めた。

実施体制：妊婦・女性性課題検討グループ、技術的課題検討グループ、統括・  
ELSI/RRI総合分析グループ

期 間：令和6年4月1日～令和7年3月31日

実施項目4：胎児治療介入技術の臨床開発・研究に関するELSI/RRIの総合分析

実施内容：昨年度に引き続き、統括・ELSI/RRI総合分析Gが中心となって、他の3つのG間での日程調整等を行うとともに、本PJの全体的な進捗の管理を行った。また、本PJで取り組む研究内容について、PJ実施者による国内外の学会での研究発表を積極的に進めた。さらに、当Gが中心となって、情報収集を含む国内の胎児治療・臨床研究を実施する専門家との交流を図るとともに、本PJで雇用する若手研究員を軸とする専門家インタビュー調査を企画・実施した。それとともに、本PJ最終年度となる次年度に胎児治療介入技術の臨床開発・研究に関するELSI/RRIに関する学術シンポジウムを開催するために、研究協力者を介して関連学会にシンポジウム企画の提案を現在図っているところである。

実施体制：統括・ELSI/RRI総合分析グループ、技術的課題検討グループ、法的課題検討グループ、妊婦・女性性課題検討グループ

期 間：令和6年4月1日～令和7年3月31日

### （3）成果

実施項目1：胎児治療に係る治療介入技術の特質に伴う倫理的懸念の抽出・整理

成 果：技術的課題検討G内で6回の研究会を行い、それらを通じて課題の遂行に努めた。その成果は、PJ実施者および協力者によって、論文および国内学会での口頭発表などの形で公表した。これら成果は6．に示した通りである。特に本年度は、内科的な胎児治療研究のELSIについて検討することで、従来の研究倫理におけるリスク・ベネフィット評価野枠組みの行き詰まりについて指摘し、その理論的克服について検討した。その結果については、国内学会でシンポジウムを開催し、広く専門家間で議論したうえで、現在国内の専門学術誌に投稿中である。

実施項目2：研究対象存在としての「胎児」に係る法的課題の検討

成 果：PJ実施者による国内外の学会での研究発表を積極的におこない、6．に示す通り、国内学会での本PJ内容をテーマとするシンポジウムにて成果を報告した。また、国際学会において、児童福祉法制上胎児への国家の介入が認められていないこと等とのバランスから、胎児治療研究における妊婦の法的責任を免除することが望ましいとする口頭報告を行った。これらの発表を通じて、胎児治療介入技術の臨床開発・研究が倫理的に適切に行われる前提としての法的枠組についての整理がほぼ終了し、来年度にそれらを論文化することの準備が整った。

実施項目3：「胎児－妊婦コンプレックス」への治療介入技術における妊婦・女性性課題の抽出・整理

成 果：PJ実施者による国内学会での研究発表を積極的におこない（日本生命倫理

学会及び日本母体胎児医学会）、6.に示す通り本PJ内容をテーマとするシンポジウムにて成果を報告するなどした。今年度中に口頭発表での公開に至った研究は、胎児治療研究における妊婦の同意をめぐる倫理問題、胎児治療に関するフェミニスト批判に対する、胎児－妊婦コンプレックス・モデルからの応答可能性、また胎児－妊婦コンプレックスの概念化に関するものである。このうち、後者2点についてはG内での議論と検討を経て、論文として投稿した。並行して、胎児治療（研究）の倫理を検討する上での「胎児－妊婦コンプレックス・モデル」の必要性を論証する英語論文のアウトラインをG内で作成し、執筆の下準備を進めた。

#### 実施項目4：胎児治療介入技術の臨床開発・研究に関するELSI/RRIの総合分析

成 果：本PJで概念化を進めている「胎児－妊婦コンプレックス」概念について国際学会で発表するなど、国際発信に努めた。また、6.に示す通り、国内学会での本PJ内容をテーマとするシンポジウム3件の実施や若手研究者を筆頭著者とする国内学術誌（査読付）への論文1件の発表をはじめとして、PJ実施者による国内外の学会等での研究発表を促進した。さらに、これら学会発表やシンポジウムへの登壇、筆頭論文の執筆指導、ならびに専門家インタビュー調査の企画・実施を通じて、若手研究者の育成を積極的に図った。

#### （4）当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

PJ3年目となる今年度は、法的課題検討G、技術的課題検討G、妊婦・女性性課題検討Gそれぞれにおいて、各担当課題について学会発表及び論文文化に向けた論点及び議論の深化に注力した。議論の方向性については、統括・ELSI/RRI総合分析Gのリーダー・サブリーダーを含めた主たるPJ実施者の多くが、各Gでの検討会のほぼすべてに横断的に参画していることもあって、スコープが過度に分散することなく検討を進めることができています。また、各Gで見出された論点の検討及び議論を深化させるために、統括・ELSI/RRI総合分析Gから胎児治療専門家である研究協力者2名に講演を依頼し、それぞれが実施する胎児治療/研究の現在の状況や現場が直面する課題等について必要な情報を収集するとともに、それぞれの論点について活発な議論を行った。これらの活発な取り組み・議論の深化作業によって、各Gでの課題検討と論文文化の作業は順調に進捗しており、当初の予定通り以上に研究は進んでいる。

### 2 - 3. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
2024年 5月2日	妊婦・女性性課題 検討G第6回研究会	オンライン	・今年度の作業方針の検討 ・論文のアイデア出し
2024年 5月7日	統括・ELSI/RRI 総合分析G2024 年度第1回会議	ハイブリッド （国立がん研 究センター築	・研究協力者による講演：胎児脊 髄髄膜瘤に対する胎児治療研究お よび減胎治療研究について

		地 キャンパス)	
2024年 5月30日	技術的課題検討 G第8回研究会	ハイブリッド (東京理科大学神楽坂キャンパス)	・胎児治療の対象となるエプスタイン病とそれに対するプロスタグランジン投与について、外部の先天性心疾患専門家4名からの情報収集及び議論の実施
2024年 6月21日	法的課題検討G 第7回研究会	オンライン	・今年度の予定 ・医事法研究第12号特集について ・刑法的視点からの検討
2024年 6月27日	妊婦・女性性課題 検討G第7回研究会	オンライン	・論文紹介と議論：National Academies of Sciences, Engineering, and Medicine, 2024. <i>Advancing Clinical Research with Pregnant and Lactating Populations: Overcoming Real and Perceived Liability Risks</i> . The National Academies Press.
2024年 7月23日	技術的課題検討 G第9回研究会	オンライン	・胎児治療の対象となる一絨毛膜双胎での双胎間輸血症候群(TTTS)での治療成績等について、TTTS治療の専門家である研究協力者からの情報収集及び議論の実施
2024年 7月25日	妊婦・女性性課題 検討G第8回研究会	オンライン	・妊婦の研究包摂とリスク／リスク評価について
2024年 8月8日	技術的課題検討 G第10回研究会	ハイブリッド (東京理科大学神楽坂キャンパス)	・胎児頻脈性不整脈に対する薬物投与臨床研究での胎児、妊婦のリスク・ベネフィットの検討 ・胎児治療専門家インタビュー調査の経過報告
2024年 8月9日	法的課題検討G 第8回研究会	オンライン	・胎児治療研究における法的課題
2024年 8月21日	妊婦・女性性課題 検討G第9回研究会	オンライン	・「患者としての胎児」概念の生成過程
2024年	妊婦・女性性課題	ハイブリッド	・「患者としての胎児」へのフェミ

9月26日	検討G第10回研究会	（国立がん研究センター築地キャンパス）	ニスト生命倫理的批判 ・妊婦は被験者なのか？
2024年 9月27日	妊婦・女性性課題 検討G第11回研究会	ハイブリッド （国立がん研究センター築地キャンパス）	・母体＝胎児コンプレックス（MFC）と胎児治療研究への参加同意の問題
2024年 10月17日	技術的課題検討G第11回研究会	オンライン	・エプスタイン病に対する非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs）投与におけるリスク・ベネフィット評価及びインフォームド・コンセントの問題について
2024年10月 17日	統括・ELSI/RRI 総合分析G2024 年度第2回会議	オンライン	・生命倫理学会公募シンポジウムでの発表打ち合わせ
2024年 10月28日	妊婦・女性性課題 検討G第12回研究会	オンライン	・胎児治療研究における妊婦のリスク：代表制原則とベルмонт・フレームワーク
2024年 11月5日	法的課題検討G第9回研究会	オンライン	・内科的な胎児治療研究の法的課題
2024年 11月25日	妊婦・女性性課題 検討G第13回研究会	オンライン	・論文検討：胎児治療研究における倫理的課題－妊婦のリスク／利益の観点から ・論文検討：「患者としての胎児」とフェミニスト生命倫理
2024年 12月4日	技術的課題検討G論文検討会	オンライン	・論文検討：内科的な胎児治療研究をめぐるELSI
2024年 12月11日	技術的課題検討G論文検討会	オンライン	・論文検討：胎児治療専門家インタビュー調査報告 ・論文検討：患者としての胎児とフェミニスト生命倫理
2024年 12月18日	技術的課題検討G論文検討会	オンライン	・論文検討：内科的胎児治療研究においてリスクとベネフィットをどう評価すべきか
2024年12月 23日	妊婦・女性性課題 検討G第14回研究会	オンライン	・論文検討：胎児治療研究における倫理的課題－妊婦のリスク／利益の観点から ・論文検討：胎児治療における「母体胎児葛藤」の概念分析

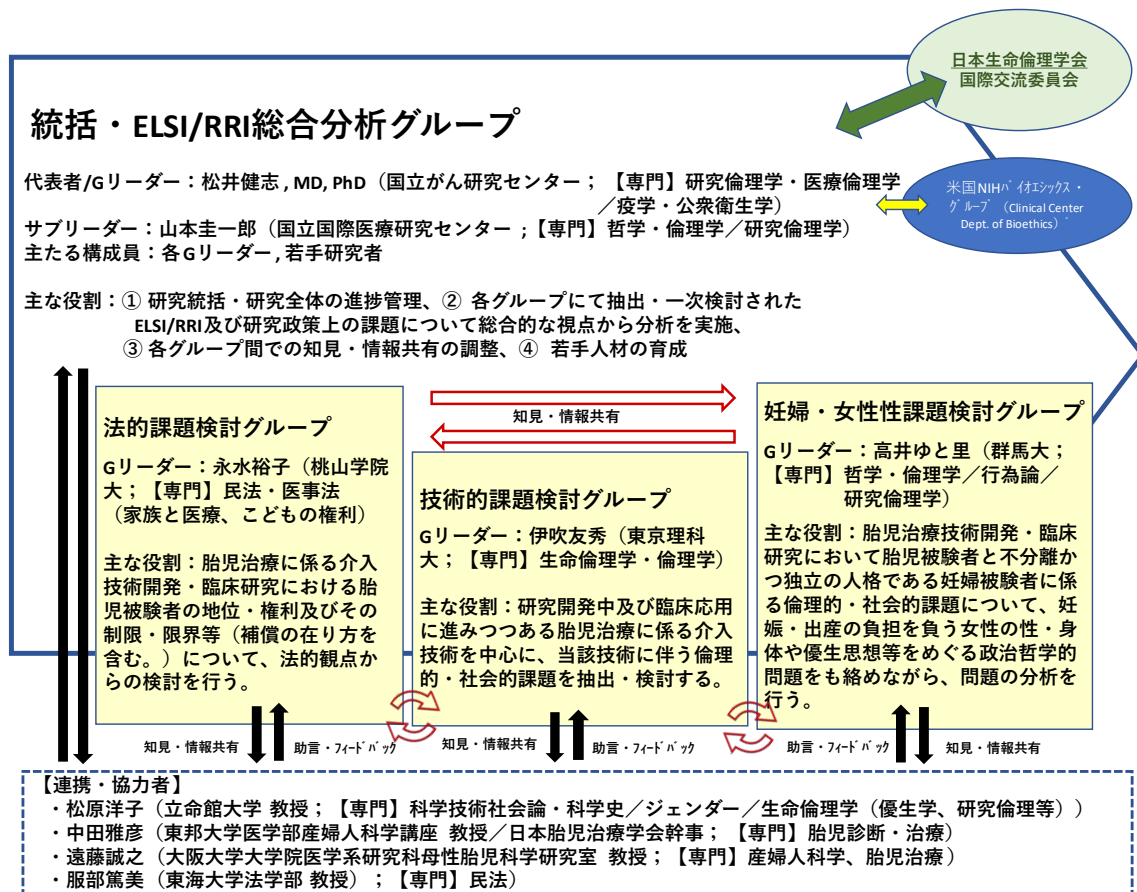


2024年 12月26日	技術的課題検討 G第12回研究会	ハイブリッド （東京理科大学 神楽坂キャンパス）	・内科的胎児治療研究におけるリスク・ベネフィット評価
2025年1月 27日	妊婦・女性性課題 検討G第15回研究会	オンライン	・AJOBコメンタリーでの論争から：（ターゲット論文）Hendriks S, et al. A new ethical framework for assessing the unique challenges of fetal therapy trials. <i>Am J Bioeth</i> , 2021; 22(3): 45-61. ; （コメンタリー論文）①Shahら、②Bartlettら、③Ibukiら ④Lyerlyら、⑤Campo-Engelsteinら、⑥Fryら
2025年 1月31日	法的課題検討G 第10回研究会	オンライン	・医事法研究第12号特集での執筆分担について ・世界医事法会議報告について
2025年 2月17日	サイトビジット	オンライン	・RInCAサイトビジット
2025年 2月17日	技術的課題検討 G第13回研究会	ハイブリッド （東京理科大学 神楽坂キャンパス）	・技術的課題検討Gの2025年度の研究について

### 3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

該当なし

### 4. 研究開発実施体制



### 5. 研究開発実施者

法的課題検討グループ（リーダー氏名：永水裕子）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職（身分）
永水 裕子	ナガミズ ユウコ	桃山学院大学	法学部	教授
遠矢 和希	トオヤ ワキ	東京大学	医科学研究所	准教授
中川 萌子	ナカガワ ホウコ	国立研究開発法人 国立がん研究センター	がん対策研究所 生命倫理・医事法研究部	特任研究員

井上 悠輔	イノウエ ユ ウスケ	京都大学	大学院医学系 研究科	教授
佐藤 雄一郎	サトウ ユウ イチロウ	東京学芸大学	教育学部（社 会科学講座法 学・政治学分 野）	教授
原田 香菜	ハラダ カナ	早稲田大学	法学学術院・ 法学部	講師
和泉澤 千恵	イズミサワ チエ	北九州市立大学	法学部	准教授
保条 成宏	ハウジョウ マサヒロ	中京大学	法学部	教授
山本 圭一郎	ヤマモト ケ イイチロウ	国立研究開発法人 国立国際医療研究 センター	臨床研究セン ター臨床研究 統括部	部長
松井 健志	マツイ ケン ジ	国立研究開発法人 国立がん研究セン ター	がん対策研究 所生命倫理・ 医事法研究部	部長

技術的課題検討グループ（リーダー氏名：伊吹友秀）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
伊吹 友秀	イブキ トモ ヒデ	東京理科大学	教養教育研究 院野田キャン パス教養部	教授
林 和雄	ハヤシ カズ オ	東京理科大学	教養教育研究 院野田キャン パス教養部	奨励研究員
高野 忠夫	タカノ タダ オ	東北大学	大学病院	特任教授
川崎 唯史	カワサキ タ ダシ	東北大学	大学病院	特任講師
三好 剛一	ミヨシ タケ カズ	国立研究開発法人 国立循環器病研究 センター	研究振興部	室長
鈴木 将平	スズキ ショ ウヘイ	国立研究開発法人 国立国際医療研究 センター	臨床研究セン ター臨床研究 統括部生命倫 理研究室	特任研究員

中川 萌子	ナカガワ ホ ウコ	国立研究開発法人 国立がん研究セン ター	がん対策研究 所生命倫理・ 医事法研究部	特任研究員
高島 響子	タカシマ キ ョウコ	国立研究開発法人 国立国際医療研究 センター	臨床研究セン ター臨床研究 統括部生命倫 理研究室	室長
荒川 玲子	アラカワ レ イコ	国立研究開発法人 国立国際医療研究 センター	臨床ゲノム科	医長
高井 ゆと里	タカイ ユト リ	群馬大学	情報学部	准教授
山本 圭一郎	ヤマモト ケ イイチロウ	国立研究開発法人 国立国際医療研究 センター	臨床研究セン ター臨床研究 統括部	部長
松井 健志	マツイ ケン ジ	国立研究開発法人 国立がん研究セン ター	がん対策研究 所生命倫理・ 医事法研究部	部長

妊婦・女性性課題検討グループ（リーダー氏名：高井ゆと里）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
高井 ゆと里	タカイ ユト リ	群馬大学	情報学部	准教授
山本 圭一郎	ヤマモト ケ イイチロウ	国立研究開発法人 国立国際医療研究 センター	臨床研究セン ター臨床研究 統括部	部長
高島 響子	タカシマ キ ョウコ	国立研究開発法人 国立国際医療研究 センター	臨床研究セン ター臨床研究 統括部生命倫 理研究室	室長
荒川 玲子	アラカワ レ イコ	国立研究開発法人 国立国際医療研究 センター	臨床ゲノム科	医長
高野 忠夫	タカノ タダ オ	東北大学	大学病院	特任教授
川崎 唯史	カワサキ タ ダシ	東北大学	大学病院	特任講師

三好 剛一	ミヨシ タケ カズ	国立研究開発法人 国立循環器病研究 センター	研究振興部	室長
遠矢 和希	トオヤ ワキ	東京大学	医科学研究所	准教授
中川 萌子	ナカガワ ホ ウコ	国立研究開発法人 国立がん研究セン ター	がん対策研究 所生命倫理・ 医事法研究部	特任研究員
松井 健志	マツイ ケン ジ	国立研究開発法人 国立がん研究セン ター	がん対策研究 所生命倫理・ 医事法研究部	部長

統括・ELSI/RRI総合分析グループ（リーダー氏名：松井健志）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
松井 健志	マツイ ケン ジ	国立研究開発法人 国立がん研究セン ター	がん対策研究 所生命倫理・ 医事法研究部	部長
山本 圭一郎	ヤマモト ケ イイチロウ	国立研究開発法人 国立国際医療研究 センター	臨床研究セン ター臨床研究 統括部	部長
永水 裕子	ナガミズ ユ ウコ	桃山学院大学	法学部	教授
高井 ゆと里	タカイ ユト リ	群馬大学	情報学部	准教授
伊吹 友秀	イブキ トモ ヒデ	東京理科大学	教養教育研究 院野田キャン パス教養部	教授
高島 響子	タカシマ キ ョウコ	国立研究開発法人 国立国際医療研究 センター	臨床研究セン ター臨床研究 統括部生命倫 理研究室	室長
井上 悠輔	イノウエ ユ ウスケ	京都大学	大学院医学研 究科	教授
佐藤 雄一郎	サトウ ユウ イチロウ	東京学芸大学	教育学部（社 会科学講座法 学・政治学分 野）	教授
原田 香菜	ハラダ カナ	早稲田大学	法学学術院・ 法学部	講師

和泉澤 千恵	イズミサワ チエ	北九州市立大学	法学部	准教授
保条 成宏	ハウジョウ マサヒロ	中京大学	法学部	教授
三好 剛一	ミヨシ タケ カズ	国立研究開発法人 国立循環器病研究 センター	研究振興部	室長
高野 忠夫	タカノ タダ オ	東北大学	大学病院	特任教授
川崎 唯史	カワサキ タ ダシ	東北大学	大学病院	特任講師
鈴木 将平	スズキ ショ ウヘイ	国立研究開発法人 国立国際医療研究 センター	臨床研究セン ター臨床研究 統括部生命倫 理研究室	特任研究員
中川 萌子	ナカガワ ホ ウコ	国立研究開発法人 国立がん研究セン ター	がん対策研究 所生命倫理・ 医事法研究部	特任研究員

## 6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

### 6-1. シンポジウム等

年月日	名称	主催者	場所	参加人数	概要
2024 年8月 31日	第46回日本母体胎児 医学会学術集会シン ポジウム：医学研究 の中の胎児－妊婦を めぐるELSI（倫理 的・法的・社会的課 題）	中田雅 彦, 遠藤誠 之	アクト シティ 浜松コ ングレ スセン ター	不明（多 数）	・これまでの研究倫理学の 中で確立された被験者保護 の枠組みの多くは、胎児治 療介入研究ならではの倫理的・法的・社会的 課題についての的確に捉え、 解を見出すことができない でいる。そこで、本シンポ ジウムでは、胎児治療介入 研究の中に置かれた胎児と 妊婦の双方を適切に保護し つつ研究を進めていくため に必要な、研究倫理の新た な枠組みの在り方・形につ いて多様な観点から議論す る。

					<p>【発表者・演題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>三好剛一</u>．胎児治療研究の問題点とRISTEX松井班の活動</li> <li>・<u>伊吹友秀</u>．胎児治療研究における技術的課題：“被験者としての胎児”</li> <li>・<u>和泉澤千恵</u>．胎児治療研究における法的課題．</li> <li>・<u>高井ゆと里</u>．胎児治療研究における妊婦・女性の同意をめぐる倫理問題．</li> </ul>
2024年11月17日	第36回日本生命倫理学会年次大会公募シンポジウム：内科的な胎児治療研究をめぐるELSIについて	<u>伊吹友秀</u> ， <u>松井健志</u>	立命館大学茨木キャンパス	不明（多数）	<p>・RISTEX/RInCA松井PJでは、胎児治療研究が持つ、従来の研究倫理の枠組みを超えるような悩ましい問題群について、昨年の本学会の年次大会でもシンポジウムを開き、フロアも含めて活発な議論を行った。本年は、この内容をさらに具体化し、特に内科的な胎児治療研究に焦点を当て、進行中ないしは計画中である実際の胎児治療研究をめぐるELSI上の問題について、生命倫理学や研究倫理学のみならず、医学や看護学、法学、あるいは、ジェンダーなどの様々な切り口から議論を惹起したい。</p> <p>【発表者・演題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>松井健志</u>．冒頭説明：内科的な胎児治療研究をめぐるELSIについて．</li> <li>・<u>林和雄</u>・<u>高島響子</u>・<u>伊吹友秀</u>．胎児・妊婦を対象とする内科的胎児治療研究の許容可能性の検討：エプスタイン病に対する非ステロイド性抗炎症薬投与を手がかりに．</li> </ul>

					<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>中川萌子</u>. 胎児頻脈性不整脈に対する薬物投与の臨床研究における胎児及び妊婦のリスク・ベネフィット評価とその再考.</li> <li>・<u>高井ゆと里</u>. 胎児治療研究における妊婦の研究参加同意について.</li> <li>・<u>遠矢和希</u>. 内科的な胎児治療研究の法的課題について.</li> </ul>
2025 年2月 28日	第21回日本胎児治療学会学術集会シンポジウム1：胎児診断家族支援ミニシンポジウム	斎藤朋子, <u>遠藤誠之</u>	崎陽軒 本店会 議室	不明（多数）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・胎児診断や家族支援、あるいは胎児治療のELSIなど、胎児治療の周辺領域に関するテーマを集めたミニシンポジウムとして、これらの専門家による議論が期待される。</li> </ul> <p>【発表者・演題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・寺川由美. 胎児診断された時の母親の思いと望まれる支援.</li> <li>・勝又薫, 他. 胎児診断された児をもつ家族を対象として出生前家族教室.</li> <li>・<u>鈴木将平・中川萌子・三好剛一・松井健志</u>. 胎児治療における胎児・妊婦・パートナーの位置づけ－専門家インタビュー調査の結果から.</li> <li>・阿部薫, 他. 脊髄髄膜瘤胎児治療における皮膚・排泄ケア認定看護師の介入意義.</li> <li>・白神美智恵, 他. 脊髄髄膜瘤胎児手術を検討する家族への臨床心理士による心理的支援の実践報告.</li> <li>・池川健, 他. 当院における重症先天性心疾患胎児診</li> </ul>



					断症例における予後とそれによるアドバンス・ケア・プランニング。
--	--	--	--	--	---------------------------------

## 6－2．社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

（1）書籍、フリーペーパー、DVD

- ・  
該当なし

（2）ウェブメディアの開設・運営

- ・「胎児－妊婦コンプレックス」への治療介入技術臨床研究開発に係るELSI、  
<https://sites.google.com/view/elsi-on-fetalmaternalcomplex/>ホーム、2023年9月4日

（3）学会（6-4.参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

- ・該当なし

## 6－3．論文発表

（1）査読付き（  1  件）

●国内誌（  1  件）

- ・中川萌子, 松井健志. 「胎児治療」臨床研究における同意（及び拒否）の内実について. 生命倫理, 2024; 34: 77-85.

●国際誌（  0  件）

- ・該当なし

（2）査読なし（  0  件）

- ・該当なし

## 6－4．口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

（1）招待講演（国内会議  0  件、国際会議  0  件）

- ・該当なし

（2）口頭発表（国内会議  1  件、国際会議  1  件）

- ・Nagamizu Y（桃山学院大学）, Sato Y（東京学芸大学）. Should mothers be immune from tort liability in cases of fetal therapy? The 28<sup>th</sup> World Congress for Medical Law, Batam, Indonesia, Jul 21, 2024.
- ・川崎唯史（東北大学病院）, 高井ゆと里（群馬大学）, 遠矢和希（東京大学）, 山本圭一郎（国立国際医療研究センター）, 松井健志（国立がん研究センター）. 「患者としての胎児」とフェミニスト生命倫理. 第36回日本生命倫理学会年次大会, 茨木市, 立命館大学茨木キャンパス, 2024年11月16日.

（3）ポスター発表（国内会議\_\_0\_\_件、国際会議\_\_2\_\_件）

- ・ Arakawa R（国立国際医療研究センター）, Takashima K（国立国際医療研究センター）, Takano K, Suzuki S（国立国際医療研究センター）, Yamamoto K（国立国際医療研究センター）, Matsui K（国立がん研究センター）. Ethical issues in clinical research on fetal therapy for spinal muscular atrophy. The 2024 Annual SMA Conference, Austin, Texas, USA, June 7, 2024.
- ・ Matsui K（国立がん研究センター）, Yamamoto K（国立国際医療研究センター）, Nagamizu Y（桃山学院大学）, Takai Y（群馬大学）, Miyoshi T（国立循環器病研究センター）, Takano T（東北大学病院）, Sato Y（東京学芸大学）, Kawasaki T（東北大学病院）, Nakagawa H（国立がん研究センター）, Suzuki S（国立国際医療研究センター）, Takashima K（国立国際医療研究センター）, Ibuki T. Ethical and regulatory issues on clinical research of emerging interventions for fetal therapy. The 28<sup>th</sup> International Conference on Prenatal Diagnosis and Therapy, Boston, MA, USA, July 8, 2024.

6－5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等

（1）新聞報道・投稿（\_\_0\_\_件）

- ・ 該当なし

（2）受賞（\_\_0\_\_件）

- ・ 該当なし

（3）その他（\_\_0\_\_件）

- ・ 該当なし

6－6. 知財出願

（1）国内出願（\_\_0\_\_件）

- ・ 該当なし

（2）海外出願（\_\_0\_\_件）

- ・ 該当なし